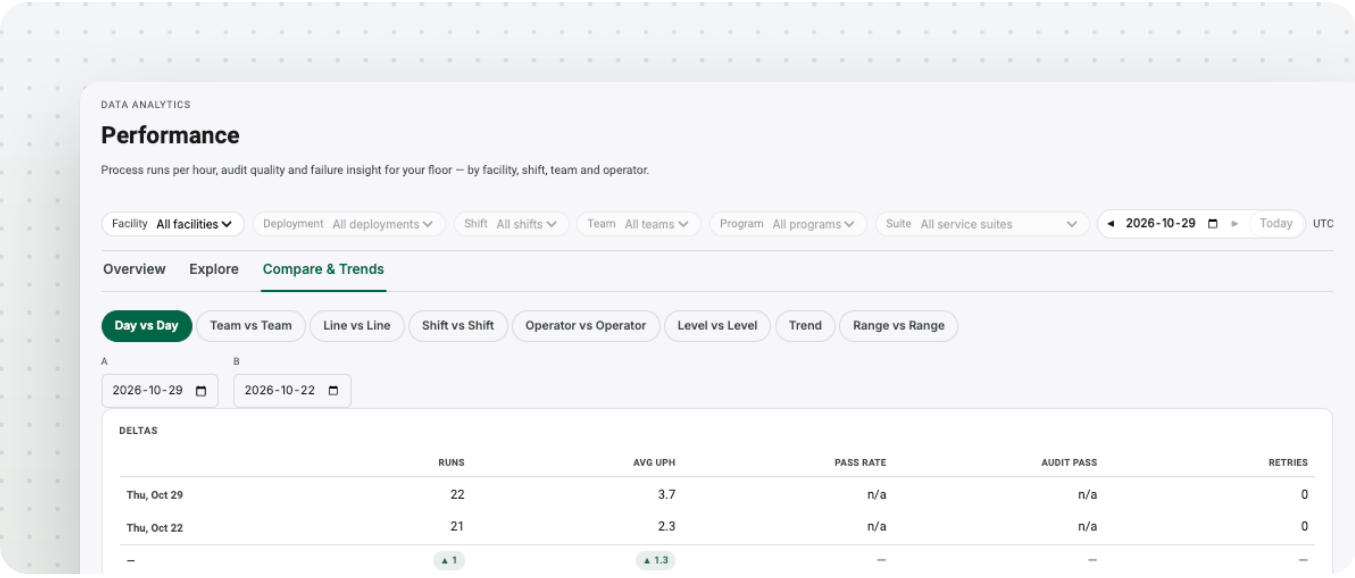
データ＆レポーティングプラットフォーム

すべての実行、すべてのオペレーター、すべてのデバイス。クエリ、グラフ化、エクスポートが可能です。

ユニット単位の完全な履歴、オペレーター監査、パフォーマンスダッシュボード、業務全体のトレンド分析を、当社にレポートを依頼することなく利用できます。測定対象である現場と同じ Control Center 内で提供されます。



対象読者
デバイス処理事業者の運用・品質・IT責任者

レコード
IMEI・シリアル・OS・ストレージ・色・地域

ウェブ
assetscience.com

概要一覧

購入検討者が必ず尋ねる 8 つの質問。

本製品は作業台ではなくレコードです。Asset Science の診断製品が各デバイスについて記録した内容を保持し、それをクエリでき、そこから証明書を発行します。テストや消去を自ら実行することはありません。

証明書 — はい

レコードから発行： 消去前、診断、データ消去、部品チェックの各証明書、印刷可能なレポートとラベル、verified.assetscience.com での公開 Web 照会、バッチ生成の PDF。

ADISA 認証 — 本製品自体は対象外

レコードの生成元が **Pro-Diagnostics（PDD）と MacRestore** である場合、ADISA 保証レベル 4 のマークが付きます。Pro-Diagnostic PC のレコードは代わりに NIST 800-88 の方式を記載しており、ADISA 認証の主張は行いません。

消去の種類 — 報告のみ、実行はしません

レコードには、処理製品が記録した **コンテンツ消去の方式** と工場出荷時リセットの状態が記載されます。消去はステーション上で実行され、本プラットフォームはその証跡を保持します。

ガイド付きユーザーテスト — 該当なし

テストはステーション上で実行されます。レコードは **すべてのテスト、すべてのサービス、すべてのオペレーター操作**を、実行者と所要時間とともに保持します。

テストの種類 — 報告のみ、実行はしません

処理中に記録されたすべてのテスト結果を、名称、ステータス、開始時刻、所要時間、失敗コードとともに保持します。バッテリー健全性とデバイスステータスのチェックも含みます。

主な機能 — 4

Device History ：ユニット単位の履歴。 **オペレーター監査** と時間単位の UPH。 **Explore** グリッド：グラフ表示と一括検索。 **エクスポート** ：47 列、スケジュール実行、メール送信。

対応プラットフォーム — あらゆるブラウザー

Control Center は **Web アプリケーション**です。管理者、監査担当者、アナリストがインストールするものはありません。レコードは iOS、Android、Mac、PC の処理から届きます。

データ分析と API — REST · CSV

ユニット単位の履歴、オペレーター監査、UPH、ダッシュボードをブラウザーで参照できます。同じデータを **Back-Office REST API**、CSV、Excel、JSON エクスポート、スケジュール配信のメールレポートでも取得できます。

1

レコード

すべての処理実行は、デバイスごとに 1 件のレコードとして記録され、識別子、テスト、サービス、オペレーターを含みます。

2

測定

Performance Dashboard は現場を時間単位で、拠点、シフト、チーム、オペレーター別に把握します。

3

Explore

ライブグリッドをフィルター、グラフ化、検索し、任意の行から Device History を開きます。

4

受け渡し

エクスポート、スケジュール配信、証明書発行、または API で自社システムに取り込みます。

本製品が行わないこと。 デバイスのテスト、グレーディング、消去は行いません。処理製品が行ったことを報告するだけであり、レコードのない結果を報告することは決してありません。実行されなかったチェックは合格ではなく N/A と表示されます。

デバイスレコード

顧客が 1 台について異議を申し立てたとき、その 1 台自身のレコードを提示します。

Device History は 1 台のデバイスの全履歴です。すべての実行、テスト、サービス、各所要時間、そこから生成された証明書タイルを含みます。集計は工場管理者のため、このページは異議申し立てのためのものです。

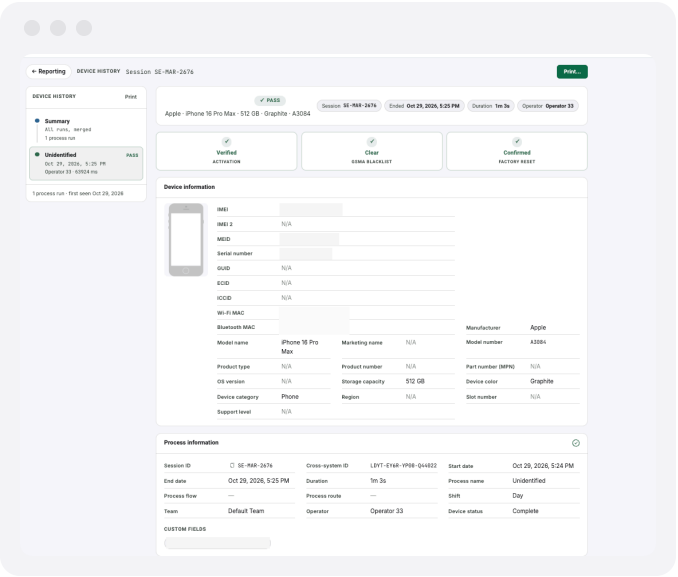


図1　Control Center → Reporting → Device History。PASS バッジ、セッション、所要時間、オペレーターを示す実行ヘッダー。アクティベーション Verified、GSMA Clear、工場出荷時リセット Confirmed、識別子と処理情報。識別子は合成データです。

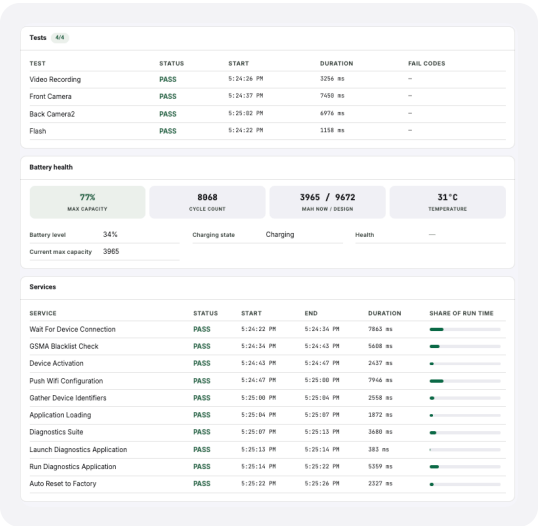


図2　Device History → Tests、Battery health、Services。実行順に 10 件のサービスを表示し、所要時間と実行時間に占める割合を示します。

識別情報

ステーションが読み取ったデバイス情報。

IMEI　IMEI 2　MEID　シリアル　GUID　ECID　ICCID　Wi-Fi MAC　Bluetooth MAC　メーカー　モデル名　モデル番号　OS バージョン　ストレージ　色　地域　カテゴリ

セッション

誰が、どこで、いつ、どれだけの時間。

セッション ID　クロスシステム ID　プロセス名　プロセスフロー　プロセスルート　開始 · 終了 · 所要時間　シフト　チーム　オペレーター　拠点　デプロイメント　ソフトウェアビルド　カスタムフィールド

証跡

テスト、サービス、バッテリー、ステータスタイル。

各テストはステータス、開始時刻、所要時間、失敗コードとともに記録されます。各サービスは実行時間に占める割合を示します。バッテリーの最大容量、サイクル数、mAh、温度。アクティベーション、GSMA ブラックリスト、工場出荷時リセットはタイル表示です。ロックは報告するのみで、解除は行いません。

すべての実行を 1 台分に

複数の実行を 1 本のタイムラインに統合。

受入、診断、消去を経たデバイスには複数の実行があります。Summary ビューはこれらを統合し、各テスト・サービスのセッション横断の合否履歴、最新結果、セッション数を表示します。各実行は単独で開け、印刷も JSON 取得もできます。

オペレーター監査とパフォーマンス

オペレーターが推測ではなく仕事をしていると、どうすれば分かるのでしょうか。

オペレーター監査は当社が先駆けて導入したもので、後付けではなく製品に組み込まれています。完了した作業を抜き取り検査しても、チェックされると分かっていたときに何をしたかしか分かりません。

製品自身の言葉による仕組み

> 監査とは、オペレーターの信頼性を評価するために結果を仕込んだテストです。これらの割合は、オペレーター監査ステータスごとに、オペレーターに割り当てられる監査と実テストの比率を定義します。

Control Center → Operation Management → Audits の原文表示。

オペレーターには見えません

プラットフォームが結果をすでに知っているテストです。

通常のキューに、通常のデバイス上で紛れ込まされ、実作業と区別がつきません。予兆が何も見えないため、オペレーターは備えることができません。

監査ステータスごとに設定

新人は高頻度で、実績のあるオペレーターは低頻度で監査します。

比率は、一度設定したポリシーに基づき、オペレーター監査ステータスごと、拠点ごとに設定されます。リストを保守する必要はありません。テストスイート自体では、オペレーター監査は失敗コード表示や高速テストと並ぶ 0 〜 5 の設定項目です。

公平な比較

不公平な比較は行いません。

監査レベルの異なる 2 人のオペレーターを並べると、ダッシュボードはグラフを描く前にこう示します。 *これらのオペレーターは監査レベルが異なるため、パフォーマンスの差が生じることが想定されます。*

Performance Dashboard で他の何よりも上に表示される 7 つの数値。

処理台数	合格率	平均 UPH	現在の UPH	監査失敗	再試行	未完了
対象期間に完了した実行。	合格で終了した割合。	稼働時間で加重した 1 時間あたりの台数。	現時点のレート。	仕込んだ監査を誤った件数。	再度処理に回ったデバイス。	結果に到達しなかった実行。

そして理由を示します。

合格率が 4 ポイント下がったことは問いです。ドリルダウンが答えです。 **失敗理由の上位** （自社で定義したカテゴリ別）、 **失敗したテストの上位** （不良ロットと不良治具を見分けられます）、 **失敗した監査の上位** （何を教育すべきかが分かります）。さらに失敗コードとカスタムフィールド別の件数。すべて拠点、デプロイメント、シフト、チーム、プログラム、サービススイートで絞り込めます。

> **正直に示す 2 つの制約。** テスト別の監査と失敗テストの詳細は当日のライブビューのみで、アーカイブではありません。過去の実行、結果、エクスポートはすべて保持されます。また監査が測るのはオペレーターの信頼性であり、デバイスの状態ではありません。その判断をその人に任せられるかであって、この端末が A か B かではありません。

EXPLORE とダッシュボード

依頼するレポートではなく、自分で操作するグリッド。

Explore は処理実行のライブレコードテーブルです。フィルターし、グリッドからグラフ化し、識別子の CSV を照合検索し、任意の行から Device History を開けます。

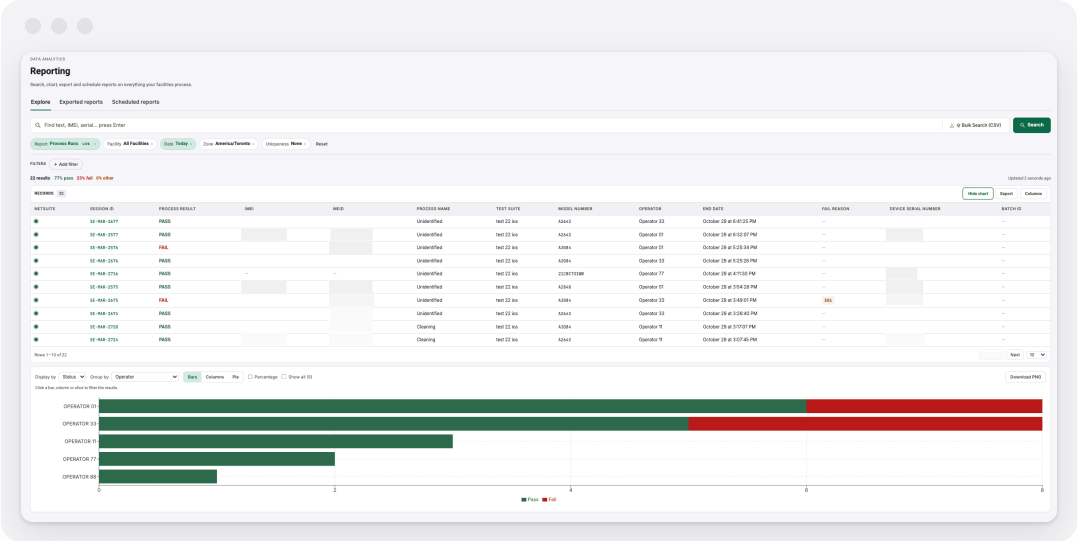


図3　Control Center → Reporting → Explore。合格率 77% の帯とともに 22 件の処理実行を、セッション、結果、プロセス、スイート、モデル、オペレーター、終了日、失敗理由とともに表示し、下に同じ行をオペレーター別にグラフ化しています。識別子の列はマスク済みです。

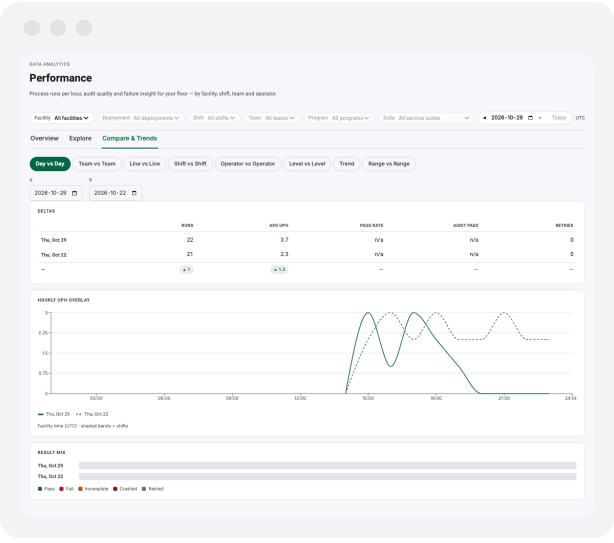


図4　Data Analytics → Performance → Compare & Trends、Day vs Day。実行数、平均 UPH、合格率、監査合格、再試行の差分を、1 本の時間単位 UPH 軸上の 2 日分の推移の上に表示します。

- **グリッドからグラフ化**：すでに適用中のフィルター条件のまま、オペレーター、ステータス、任意の列で棒グラフ、縦棒グラフ、円グラフに集計できます。棒をクリックすると、その条件にグリッドが絞り込まれます。
- **識別子 CSV による一括検索**。「この 400 台に何が起きたか」は 1 つのファイルで済み、400 回の検索は不要です。
- **秒単位の期間指定**、全文検索、そして一意性の制御（全実行、デバイスごとの最新、またはデバイスごとの最初）。

拠点自身の時刻で、現場を時間単位に。

多くのプラットフォームは昨日を報告します。このダッシュボードは、いまのシフトを超えたいシフトと並べ、拠点のシフトをその拠点のタイムゾーンで時間別プロットに網掛け表示します。8 つの比較モードを 1 本の軸で：

Day vs Day　Range vs Range　Team vs Team　Shift vs Shift　Line vs Line　Operator vs Operator　Level vs Level　Trend

エクスポートとスケジュールレポート

スケジュール化して、依頼をやめましょう。

Explore で作成できるレポートは、選んだ列でエクスポートし、ログインを持たない相手にメール送信し、あるいは一定間隔で生成してリスト宛てに送信できます。

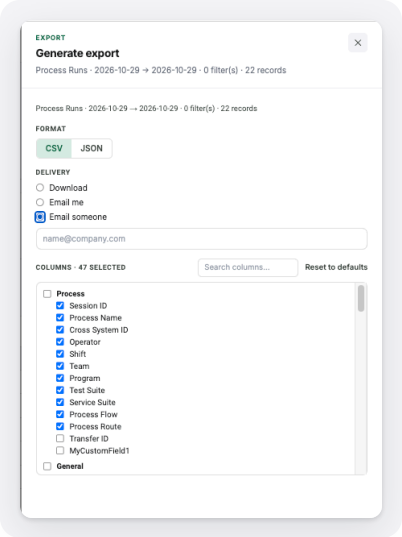


図5　Reporting → Generate export。CSV または JSON、ダウンロードまたはメール、47 列を選択。

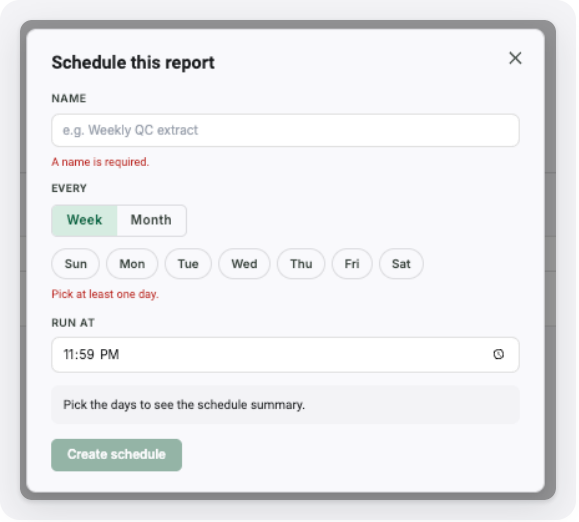


図6　Reporting → Schedule this report。週次または月次、日付ピッカー、実行時刻、名称。

列

選択可能な 47 列、独自の列も含みます。

プロセス、オペレーター、シフト、チーム、プログラム、スイート、フロー、ルート。デバイス、バッテリー、インフラの各フィールド。さらに自社で定義したカスタムフィールド。ワンクリックで既定値に戻せます。

形式と配信

CSV または JSON。ダウンロードもメール送信も可能。

自分宛てにも、アドレスを指定して他者にも送信できます。Excel エクスポートはスキャンステーションから生成されます。Explore のフィルターはファイルにも適用されます。

実行間隔

毎日、平日のみ、1 日、15 日。

週次または月次で、日付ピッカーと実行時刻を指定し、誰もログインしなくても生成・メール送信されます。専用タブで管理します。

保持期間

完了したエクスポートは 30 日間保持。

Exported reports タブには、各ファイルが行数、ステータス、フィルター、サイズとともに一覧されます。誰も開かなかったレポートも、求めたときにそこにあります。

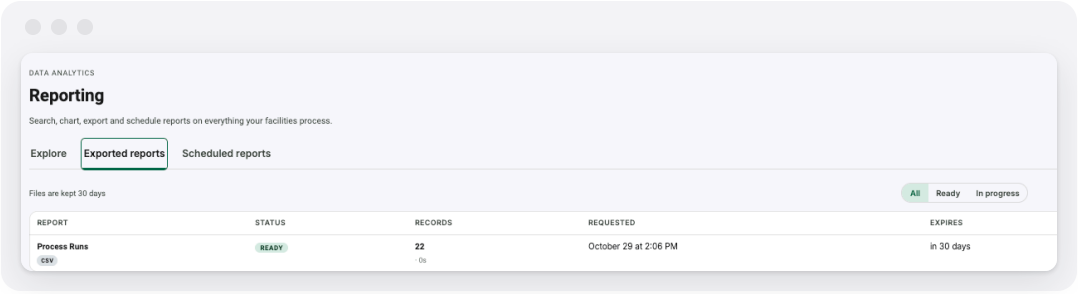


図7　Reporting → Exported reports。22 レコードの Ready 状態の CSV が 1 件、30 日で期限切れ。トリミングしています。

データから生成する証明書

証明書はレコードのビューであり、2 つ目のコピーではありません。

公開証明書に表示される内容は、Device History が保持する内容そのものです。デバイスごとの 1 件のレコードがすべての証明書を生成し、不合格のデバイスに黙って証明書が発行されることはありません。

証明書	記載内容
消去前	消去開始前に識別されたデバイス情報。
診断	名称付きの全テストとその結果、バッテリー健全性、ステータスタイル。
データ消去	コンテンツ消去の方式と工場出荷時リセットの状態、NIST 800-88 の方式名を明記。PDD と MacRestore のレコードには ADISA 保証レベル 4 のマーク。
部品チェック	画面やバッテリーが交換されているかを、確実に監査可能な形で示します。
レポートとラベル	レコードヘッダーから印刷できるコピーと、同じ証明書に解決する QR コード付きラベル。

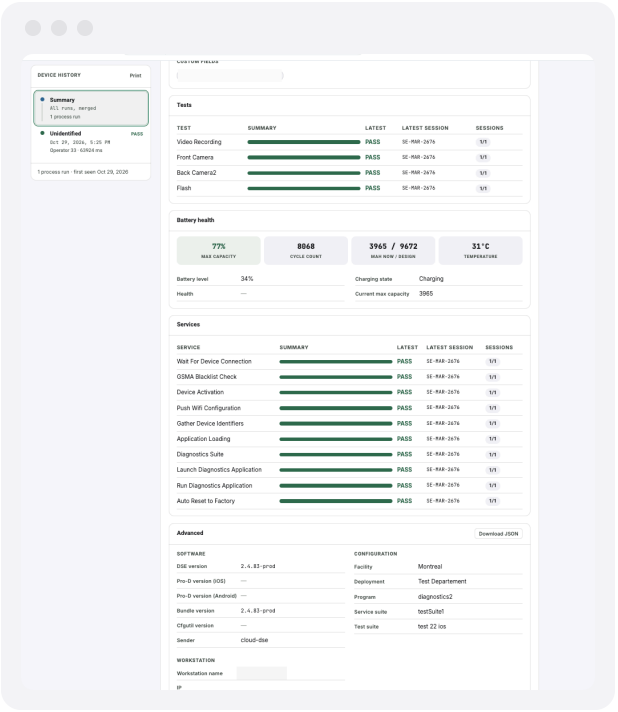


図8　Device History → Summary、全実行を統合。テストとサービスを合否履歴とともに表示し、バッテリー健全性、続いてそのレコードを生成したソフトウェアと構成、Download JSON を表示します。ワークステーション名と IP はマスクしています。

- **PDF** をデバイスごとに生成し、アカウントで許可されていれば、リンクを持つ誰もがダウンロードできます。
- **公開照会**：verified.assetscience.com で IMEI、シリアル、MEID、GUID から照会でき、アカウントは不要です。
- **バッチ**：証明書 PDF をバッチ生成して送信し、エクスポートしたレポートに証明書リンクを含めます。

API での受け渡し

当社に依頼せずデータを取り出せます。

REST

統一エンドポイント、スコープ付きキー。

Back-Office API Suite は同じレコードを REST で公開し、ベアラートークンで認証。キーはテナント、拠点、デプロイメント単位で、他拠点は読めません。

検索、グラフ、エクスポート

Explore でできることを自社のコードで。

レポーティングの検索・グラフのエンドポイント、CSV エクスポート、API キーによる JSON エクスポート。Device History は全レコードを状態付きで返し、保持中のレコードも欠落しません。

連携先

ERP、BI、スプレッドシート。

プログラム設定から NetSuite へ結果を送信。CSV を BI ツールに渡すことも、スケジュール配信メールで必要な人の受信箱に届けることもできます。グリッド上のものは出し惜しみしません。

規模

本プラットフォームで年間 12M+ 台のデバイスを処理しています。

予測値ではなく、2010 年以来持続している実稼働のスループットです。それらの実行の一つひとつが、オペレーター、タイムライン、証明書を伴うレコードであり、そのすべてを同じグリッドからクエリできます。

自社の現場で 1 日動かし、翌日と比べてください。

無料トライアルを開始し、自社拠点のステーションでデバイスを処理して、Explore、Performance Dashboard、Device History が自社のデータで埋まっていく様子をご覧ください。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは製品ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、セッション ID、オペレーター名、顧客データは合成データです。製品名および商標は各所有者に帰属します。